

1号機の運転状況（監視強化）について

東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

1号機は、定格熱出力一定運転中のところ、本日午前7時頃、排ガス系の高感度オフガスモニタ^{*1}の指示値に上昇傾向が見られました。現在、高感度オフガスモニタの指示値は若干低下しておりますが、監視を強化して運転を継続しております。また、放射線監視モニタ^{*2}および排気筒モニタ^{*3}の指示値に変動はなく、外部への放射能の影響はありません。

高感度オフガスモニタ指示の上昇の原因は、燃料の一部からの微小な漏えいの可能性が考えられます。

明日より、プラント出力を下げた状態で制御棒を操作し、漏えい燃料を特定します。漏えい燃料が特定された場合には、近傍の制御棒を挿入し、当該燃料の出力を抑制した上で、再びプラント出力をもとに戻すこととしております。

なお、本事象はプラントの安全運転上に影響を及ぼすものではありません。

以上

* 1：高感度オフガスモニタ

燃料棒からの微小漏えいを早期に発見する目的で補助的に設置されたものであり、通常の排ガス系の監視は、これとは別に設置されている放射線監視モニタにより監視しております。

* 2：放射線監視モニタ

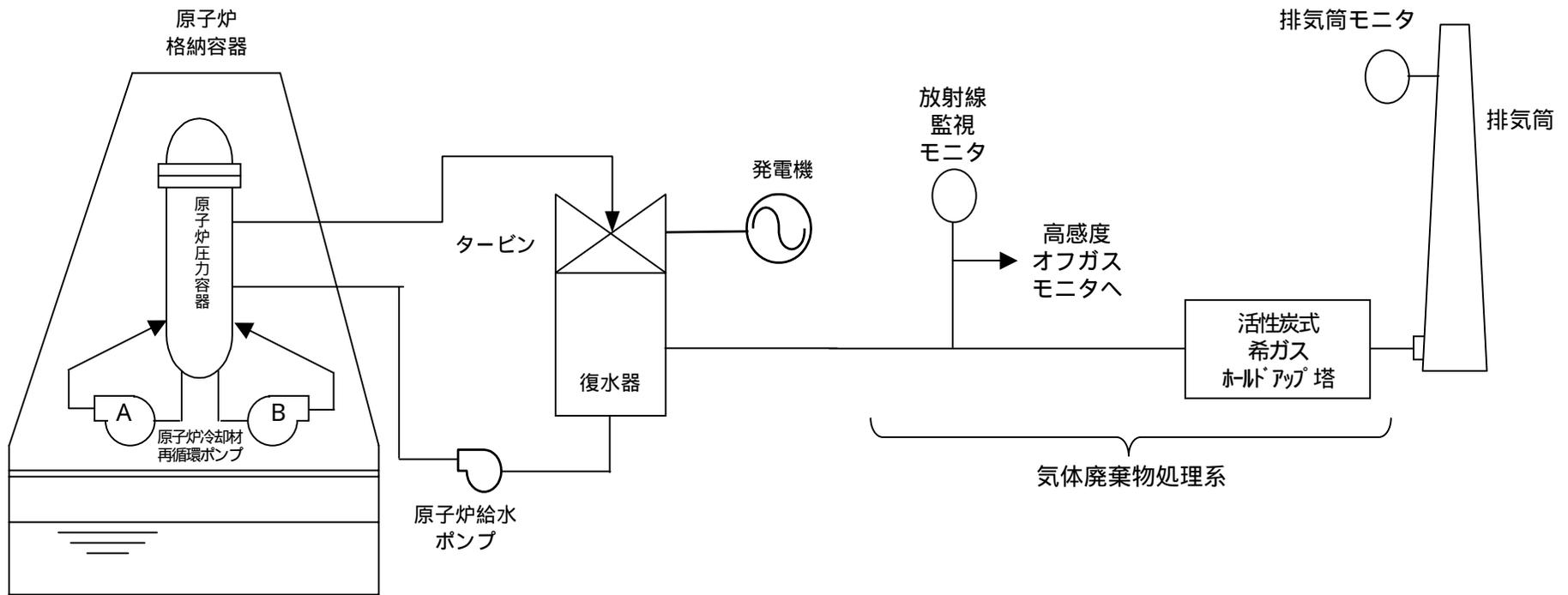
復水器と活性炭式希ガスホールドアップ塔の間に設置されており、復水器から抽出されたガスには、極微量の放射性物質が含まれているので、その放射線を監視するための機器です。

* 3：排気筒モニタ

発電所から外部に排気する空気中に希ガス状の放射性物質が含まれているかどうかを監視するとともに、放射性物質が含まれている場合には、その濃度を測定するものです。

本件は「不適合事象の公表基準」に従い、区分の事象として公表しているものです。

(不適合事象の公表基準：<http://www.tepco.co.jp/kk-np/nuclear/pdf/kijyun.pdf>)



1 号機系統概略図